

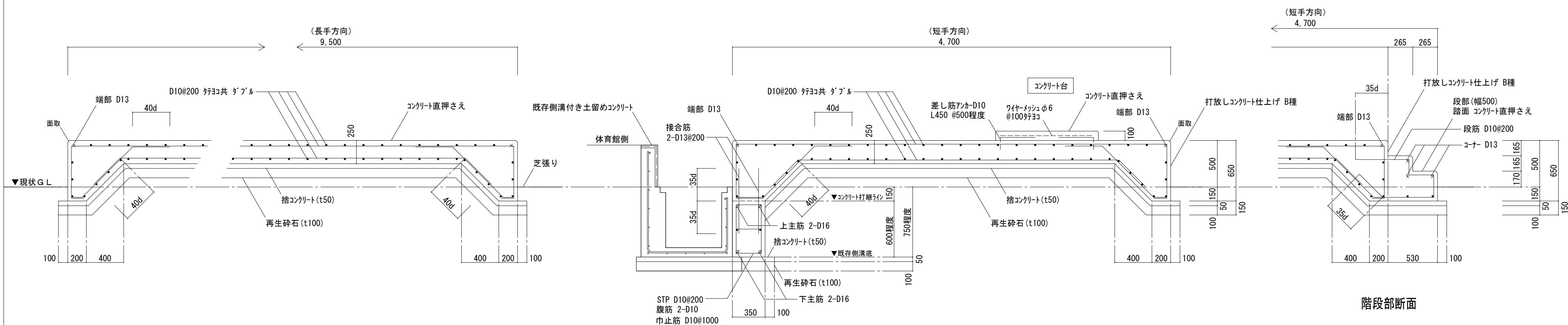
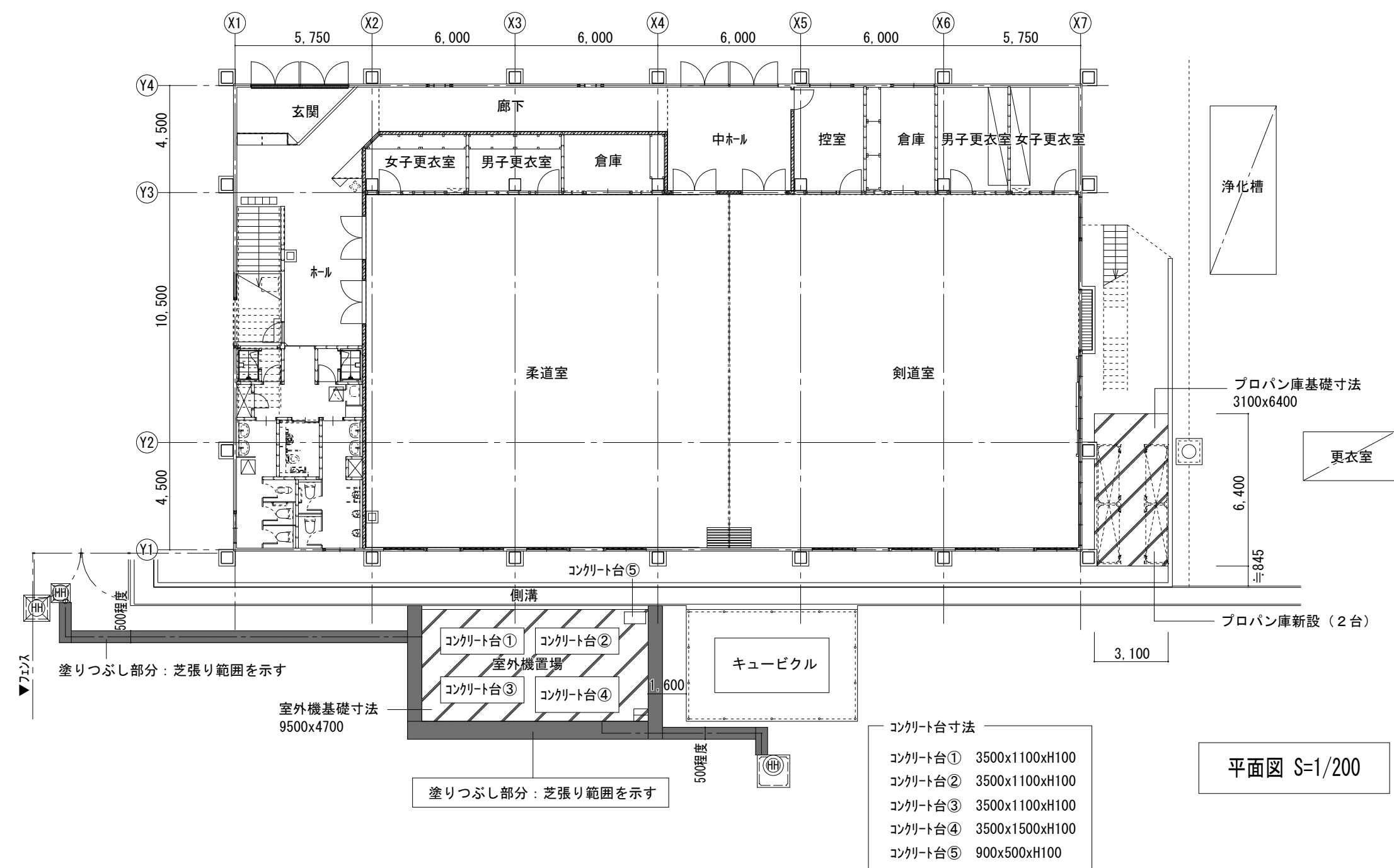
質問に対する回答書

工 事 名： R 2 鳴門渦潮高等学校 第 2 体育館空調設備設置工事電気
工事箇所： 鳴門市大津町

徳島県教育委員会施設整備課

このことについては、次のとおりです。

番号	質 問 事 項	回 答
1	(図面番号等E-01, 08) 基礎工事について 発電機及び、空調配電盤Pの基礎については、空調工事に含まれるとの理解でよろしいでしょうか？ その場合、耐震計算等は、電気工事で行い、それに基づき空調工事業者様が、基礎の施工をして、いただけるとの事で宜しいでしょうか？	L P ガス発電設備と空調配電盤Pのコンクリート基礎は別途発注の空調工事に含まれます。 貴見のとおり耐震計算は電気工事で行い、コンクリート基礎工事は別途発注の空調工事で施工します。 また、L P ガス発電設備や空調配電盤Pの設置箇所のコンクリート基礎寸法はそれぞれ3,500mm×1,500mm(高さ100mm)、900mm×500mm(高さ100mm)で設計しており、別紙1は別途発注空調工事のコンクリート基礎の抜粋図面です。 なお、電気工事の耐震計算等に基づき一方的に基礎の形状等が決まるものではなく相互に協力・調整し完成させるものですので御留意ください。
2	(図面番号等E-08、設計書(金抜き)別紙00-0004) E-08にあります。「※A(基礎共) ※B(基礎共)」について教えてください。 設計書(金抜き)別紙00-0004 にあります「配管用CB基礎 W300」の事で、配管用ブロック基礎と考えてよろしいでしょうか？	※Aと※Bについては配管配線の組合せを表す記号です。 その記号に続く「(基礎共)」は、L P ガス発電設備や空調室外機のコンクリート基礎上については、設計書(金抜き)の別紙00-0004にある「配管用CB基礎(W=300)」に対応しており、X 1 通り Y 1 通り付近の女子便所南側の2箇所については設計書(金抜き)の別紙00-0004の「配管用架台(HDZ35 門型 基礎共)」に対応しています。 また、「配管用CB基礎(W=300)」は幅300mmの配管用ブロック基礎です。



※埋め戻しは、十分に転圧等を行い締め固めること